

## 長野市の松代城下町の池庭群を支えている水路網の近年の変化

Recent Changes of Watercourses Supporting the Pond of Garden  
at Matsushiro, Castle Town, in Nagano City

佐々木邦博 長井有紀

K. Sasaki Y. Nagai

信州大学農学部

Shinshu University

Key Words : (邦文) 1. 城下町 2. 水路網 3. 池庭

(欧文) 1. castle town 2. watercourses 3. garden with pond

### 1. 松代城下町の水路網と庭園、その特徴

長野市松代町は真田藩の城下町として発展してきた。現在も、江戸時代起原の水路網と多数の池庭が残されている。その特徴は泉水路と呼ばれている特別な水路にある。水路から庭の池に入った水が水路に戻らずに、隣家の庭の池に直接入り、そこからさらに隣家の池へと流れていく水路である。道を通るのではなく、畑を通るのでもない。庭の池に水を供給するために、屋敷内の池と池を結ぶ独特の水路である。江戸時代には他の城下町でも見られた水路であるが、現在残されているのは、群馬県甘楽郡甘楽町小幡と福岡県朝倉市秋月と松代町の3ヶ所にすぎない。その中で、松代町の水路網は広範囲に広がり、複雑であり、残っている池庭の数も多い。

以前から水量が減少していると指摘されている。近年では水路を通る水が減少したため、池が水を失い、池のない庭に改変されるケースが相ついでいる。

### 2. 今までの調査

城下町として発展した松代町を総合的に調査したのは東京大学工学部大谷研究室であり、1982年に調査報告書である『庭園都市 松代 伝統的建造物群保存対策調査報告書』が発行されている。この中では都市構造を分析するとともに、武家屋敷の分析、そして水路と庭園の重要性が述べられている。その後、1985年に信州大学工学部松本研究室が調査報告として『長野市松代三町水路活性化についての調査報告書』を発行している。この報

告書は、後に長野市伝統環境保存条例に基づいて伝統環境保存区域に指定される代官町、馬場町、表柴町の水路網と池庭の調査を行い、その結果を報告している。

その後、1999年から信州大学農学部造園学研究室で池庭と水路網の調査を継続して行っている。

### 3. 本研究の目的

近年、水路を通る水量が減少するとともに、池庭が減少している。本研究は、その現状を、松代町の中でも最も水路と池庭が残されている代官町、馬場町、表柴町の3町において、調査年ごとに比較していき、減少の様子を明らかにし、その要因を探るものである。松代町の水路網と池庭の調査結果が示されている1982年の報告書、1985年の報告書、そして1999年の調査結果、2006年の調査結果、2012年から13年にかけての調査結果に基づいて考察を進める。

### 4. 今までの調査結果

#### (1) 1982年発行の『庭園都市 松代』

東京大学工学部大谷研究室の調査は1981年に行われている。調査報告書の中に掲載されている水路網の図が、図1である。複雑な水路網全体を調査した最初の成果である。南の同心町から北の荒神町まで、西は神田川から東は長国寺まで旧城下町の範囲が示されている。全体を眺めると、水路網がよく発達しているのがわかる。特に、代官町、馬場町、表柴町は、水路と池庭の結びつきが丁



図1 『庭園都市 松代』に掲載されている水路図 (1982年調査)

寧に示されている。この調査により、松代町の水路が3区分されて考えられるようになった。道を通れるカワ、屋敷地の裏側の敷地境界を通れるセギ、屋敷地内を池から隣家の池へと通れる泉水路と区分している。この調査報告書により、屋敷地内を通れる水路が初めて泉水路と名付けられた。ただ、紙面の都合か、神田川の取水口がある南側や東の旧関谷川の区域が示されていない。また調査時間の制約からか、3町以外の町においては未調査のまま残された水路が散見され、また池庭も上記の3町の調査が中心であった。水路網が複雑であり、詳細を把握するのが困難な面があることがあげられる。

## (2) 1985年発行の『長野市松代三町水路活性化についての調査報告書』

信州大学工学部松本研究室の調査は1984年に行われている。水系を詳細に調査し、池庭の配置図を作成している。

調査の特徴は、代官町、馬場町、表柴町の3町において水路と池庭の詳細な調査を行ったこと、そして水源から3町の水路までの水路を確認したことである。

図2が調査報告書に掲載されている水源からの水路図である。神田川からの取水口が2ヶ所示されている。特に南側の取水口(水源A)からの水路は分岐し、代官町や表柴町に流れていく形だけではなく、神田川からのもう一つの取水口(水源C)、また水源としての湧水等2ヶ所(水源DとE)が示されている。水源Bは閉ざされ、FとGはあまり湧出していないと記述されている。

調査対象区域である3町の水路と池庭の図が、図3である。南北にのびる道に沿ってまっすぐにカワが流れているが、西から、代官町、馬場町、表柴町の通りと町がある。●印は池庭である。この調査で3町における水路が詳細に調査され、詳細な水路図が初めて作成された。カワとセギと泉水路、そして池庭がどのように水路により結ばれているかが明らかになった。カワは3町の通りにそれぞれ流れている。セギは代官町の西側、及び馬場町と表柴町の間で明確に認識できる。泉水路は、馬場町の両側、特に東側で長く、20あまりの池が泉水路によりつながっている。代官町の通りの東西でも見られるが、短い。表柴町ではあまり見られない。池庭の数は、馬場町が圧倒的に多い。代官町、表柴町と少なくなっていく。この調査の時に水が失われたことが確認された池もある。

報告書では9ヶ所の池の消失が確認され、枯山水になった庭が地図にまとめられている。その場所は代官町が8ヶ所、ばば町が1ヶ所である。代官町の8ヶ所はいずれも代官町の北側である。

## (3) 1999年の調査

1999年に信州大学農学部佐々木研究室で調査を行っている。3町の水路と庭園の他に、水源から3町、そして3町から下流の調査を行った。3町の結果が図4である。水源は、神田川から4ヶ所で取水されていることがわかった。

水路については、1999年の調査結果を1984年の調査結果と比較すると、代官町の北側で、通りの東側の泉水路が消滅している。馬場町では東側と西側の双方で池が無くなるとともに泉水路がまっすぐに変更されている。表柴町でも南側で泉水路がなくなり、また池が失われたところでは泉水路が池を経由せずまっすぐに変更されている。池は、代官町や馬場町の北側、そして表柴町では特に通りの西側で失われている。

## (4) 2006年の調査

2005年から2006年にかけて、同様の調査を行った。対象地は旧松代城下町全域である。町の全域における詳細な水路網が明らかになった。

3町における水路だが図5に示した。水路はあまり変化していない。また、池も馬場町で1ヶ所失われただけである。

## (5) 2011年から13年の調査

2011年から13年に改めて調査を行っている。対象は旧松代城下町全域である。その結果を、3町を中心に、図6に示した。水路だが、特に馬場町の北側で泉水路が失われている。また表柴町の通りの東側でセギが失われた。池もかなり失われている。特に馬場町で激しい。馬場町の通りの東側の泉水路につながっている池で、泉水路の中央部分と北側の池が多く失われた。

## 5. 消失した水路及び池庭の地区

調査の対象とした30年間で、消滅した水路及び池を見ていく。水路に関しては、主に泉水路が消滅している。代官町の北側、馬場町の北側、表柴町の東と南側があげられる。ただ、カワは変化せず、セギもほとんどが失われていない。いわば、水路網の骨格は残っているといえる。しかし、失われている泉水路は松代に残る水路網の特徴であり、骨格が残りながらも、水路網の特徴が失わ

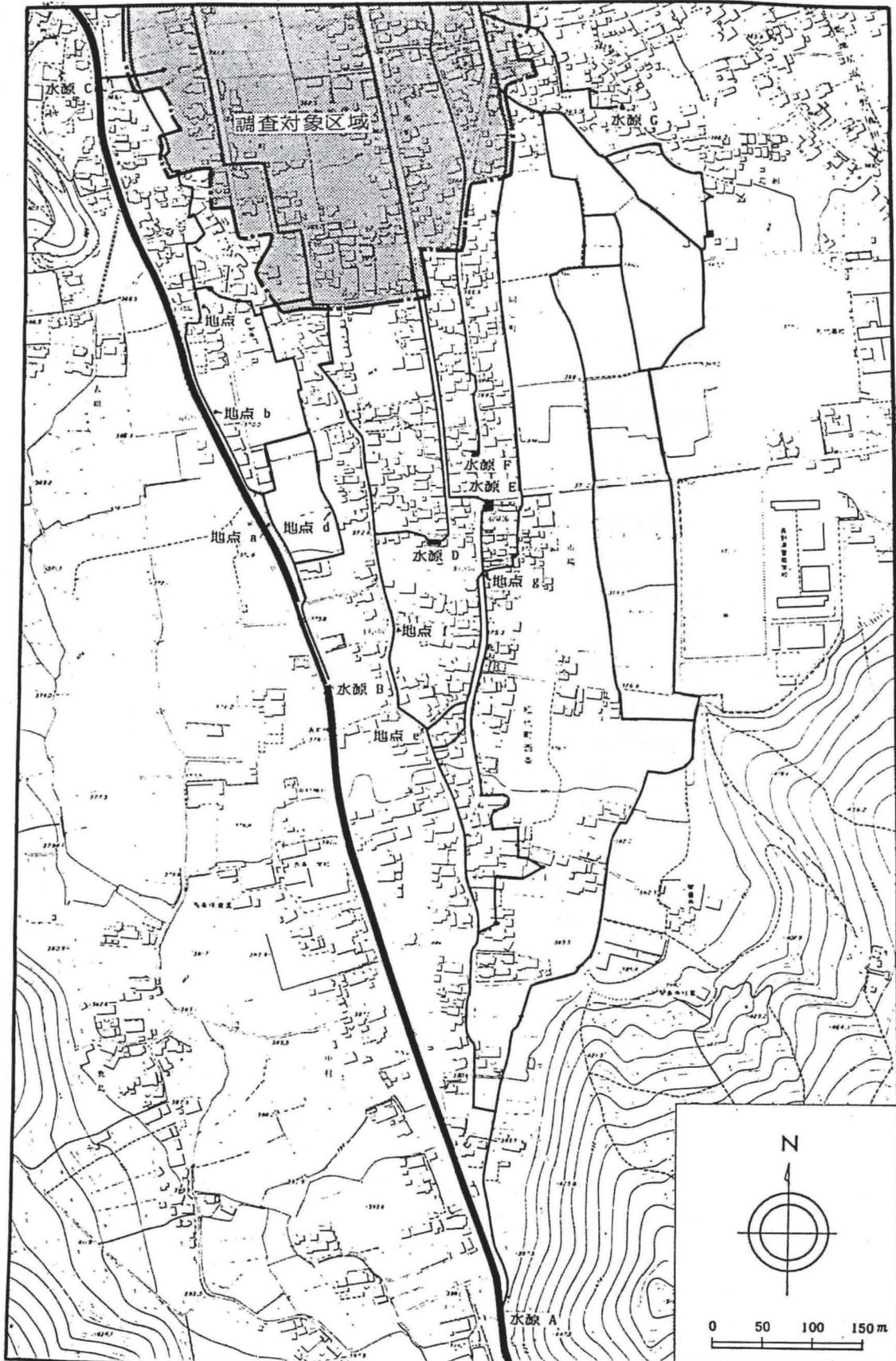


図2 『長野市松代三町水路活性化についての調査報告書』に掲載されている水源からの水路図  
(1984年調査)

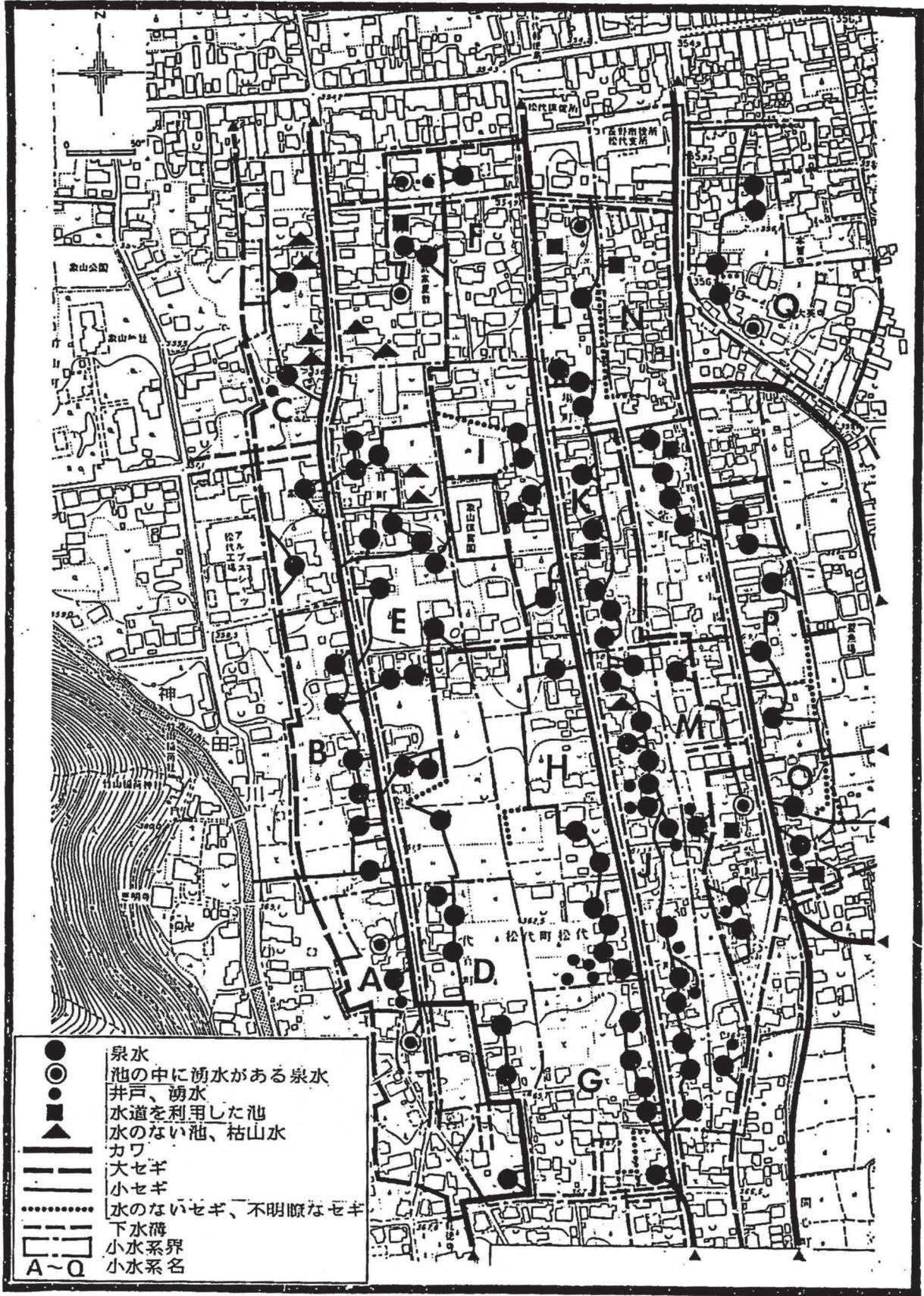


図3 『長野市松代三町水路活性化についての調査報告書』に掲載されている三町の水路図

南北に伸びる道は、西から代官町、馬場町、表柴町である。

(1984年調査)



図4 1999年の水路と池庭の位置図

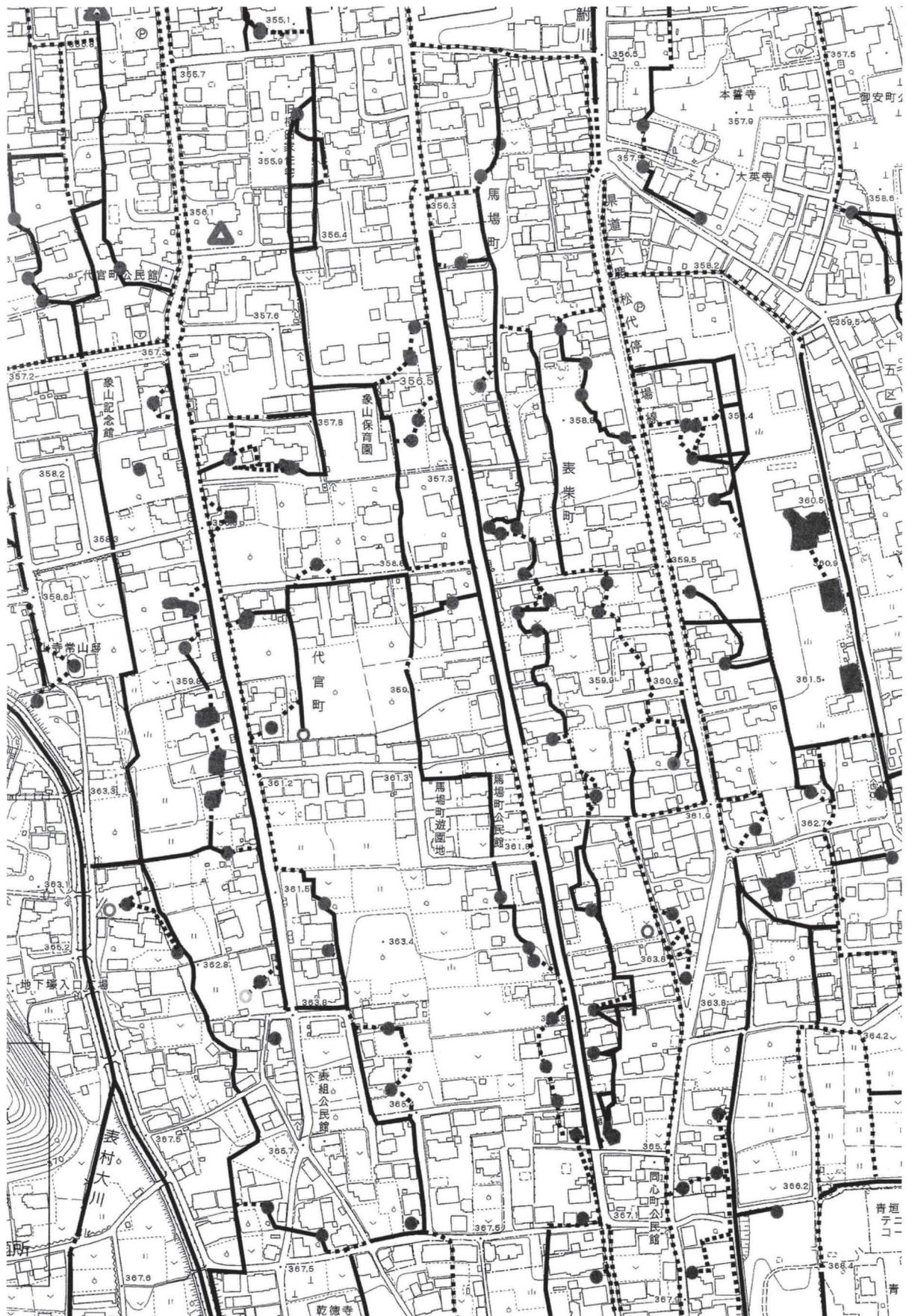


図5 2006年の水路と池庭の位置図



図6 2013年の水路と池庭の位置図

れつつあるといえる。

池の減少だが、その変化を表1に示した。1985年から2013年にかけて大幅に減少している。どの町でも減少しているが、数が多い馬場町で特に多い。全体で45%の池が失われている。

表-1 池庭の減少

町	1985年の池庭	2013年の池庭	消失数
代官町	34	19	15
馬場町	42	21	21
表柴町	22	12	10
合計	98	52	46

## 6. 消失の原因

消失の原因は、調査の結果、以下のことがあげられる。

第一に、宅地化の進行である。特に3町の北側の方では中心部に近いせいか、宅地開発が相次いでいる。松代町の武家屋敷は伝統的に敷地の奥の方が畑として利用されており、その部分が売却され、宅地として分譲されている。また、空き家となり、屋敷ごと売却された場合もある。敷地の面積は500坪から800坪あり、更地にされて区画割りされるという、ミニ開発が以前から行われているのだが、現在でも行われている。その結果として古い屋敷と庭園がともに失われている。

第二に、水量の不足があげられる。神田川の流量が少なくなったと言われている。さらに、昭和30年代に神田川の氾濫が起って以来、河床が下げられ、それ以来、この地区にある湧水の湧出量が少なくなったと住民の方から報告されている。馬場町では、水源を湧水に頼っているため、湧水が枯渇するときもあり、最も影響を受けている。

第三に、水質があげられる。下水が流れ込んでいたため、水質が良くない。以前から下水が流れこみ、1984年の報告書でも問題視されていた。現在、下水道が普及しつつあり、水質は少しずつ改善されてきたと考えられるが、その分だけ水量が減少している。また、農薬が流されたなどの理由で、池の鯉が死ぬことがあった。その結果、鯉を飼うことをあきらめるだけではなく、水を取り

入れることをやめて枯山水に改修したり、あるいは庭を全く変えてしまう例が見られる。

## 7. まとめ

水路、特に泉水路と池の減少が続いている。今後とも同様の傾向が継続されると考えられる。泉水路と池庭は松代町の特徴を構成しているだけに、対策を講じる必要がある。

長野市では、伝統環境保存条例を制定し、1984年には代官町、馬場町、表芝町の3町が伝統環境保存区域に指定され、古くからの建物や水路の修復、塀の改修などが補助の対象とされた。のちに竹山町も指定される。その結果、この4町においては建物や水路や塀などが修復され、景観的には整えられたと言える。しかし、現在起きていることは、庭園や屋敷地全体の消滅である。新たな対策を打ち出す必要がある。

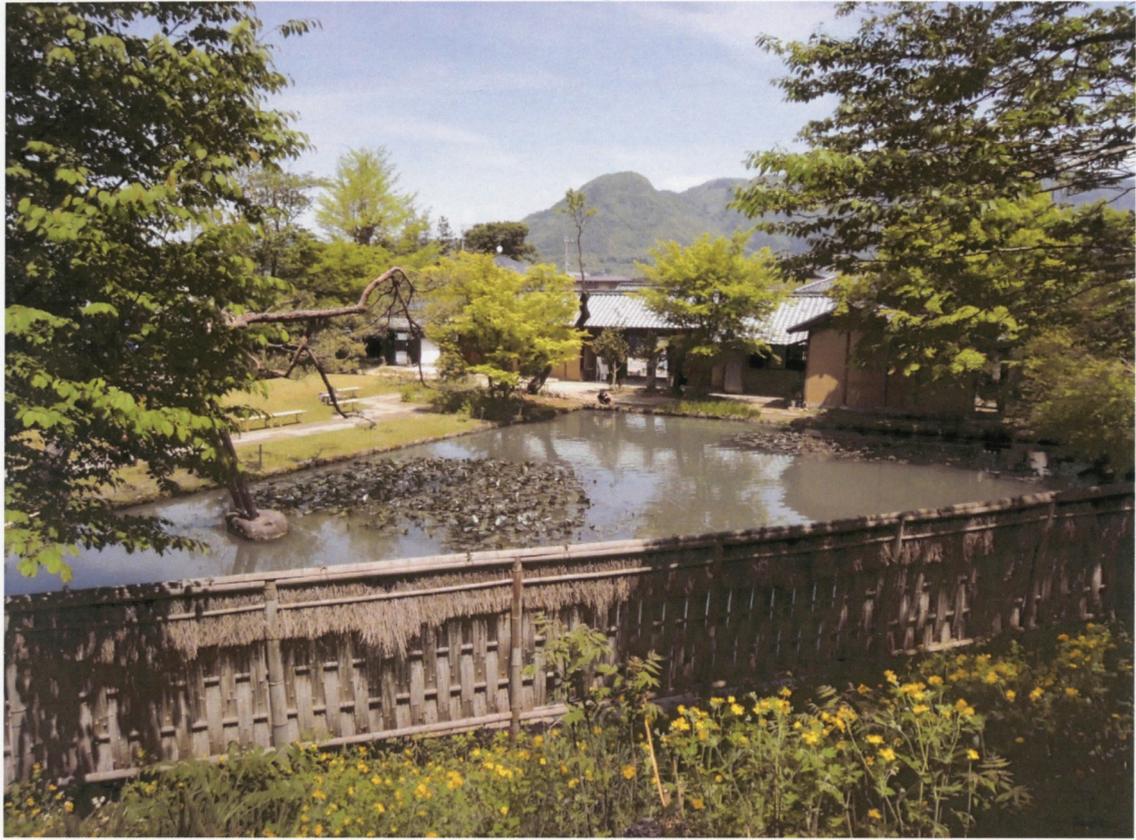
今後の保全を考えると、所有者、地域住民、行政の、3者が協力して対策を練ることが重要である。所有者が一番困っていることは庭園の維持管理であり、特に池と水路の泥上げがおろそかになっていることがある。地域住民の中には、松代町に残されている水路と池に無関心な方も多い。長野市がこれらの大切さ、価値をより積極的に広報し、関心を高め、維持管理などに関するボランティアを組織していくことが望まれる。

## 要旨

本研究の目的は、江戸時代起原の水路網と多数の池庭が残されている長野市松代町において、近年のそれらの減少を明らかにし、その要因を探ることを目的としている。水路と池庭の調査は、1981年から5回行われており、その調査結果を比較して、明らかにした。水路に関しては、主に泉水路が消滅している。代官町の北側、馬場町の北側、表柴町の東と南側があげられる。ただ、カワは変化せず、セギもほとんどが失われていない。いわば、水路網の骨格は残っているといえる。池の減少だが、全体で45%の池が失われている。その原因は、宅地化と水量不足が特に挙げられている。今後の保全を考えると、所有者、地域住民、行政の、3者が協力して対策を練ることが重要である。

## Summary

This study aims to clear the recent decrease and to look into its factors at Matsushiro-machi in Nagano city, where many water courses and garden ponds are left from Edo period. The research on them has been down 5 times from 1981, and we compared these results. About the watercourses, Sensuiro (watercourse connecting garden pond and garden pond) is mainly lost, particularly north area at Daikan-cho, north area at Baba-cho, and east and south area at Omoteshiba-cho. But Kawa (watercourse flowing along the street) doesn't change and Segi (watercourse flowing through the back of the residence) isn't lost. The framework of the watercourses is left. And about the garden ponds, 45% of them have been lost. The residential land development and the lack of water cause these decreases in particular. To preserve them, it is important that proprietor, local resident and local government cooperate and work out a countermeasure.



松代城下町池庭群・山寺常山邸庭園（佐々木・長井論文参照）



松代城下町池庭群・旧横田家住宅庭園（佐々木・長井論文参照）